

2020年10月23日

各位

**「公益信託ENEOS水素基金」2020年度 助成対象者の決定について**  
**～水素エネルギーによるサステナブルな社会の実現に向けて～**

当社（社長：大田 勝幸）は、当社が設立した「公益信託ENEOS水素基金（運営委員長：北川進 京都大学高等研究院 特別教授、受託者：三井住友信託銀行）」の2020年度助成対象者を次の5名に決定したことをお知らせいたします。

(敬称略)

影島 洋介 (かげしま ようすけ)	信州大学 工学部 物質化学科 助教
山方 啓 (やまかた あきら)	豊田工業大学大学院 工学研究科 准教授
木田 徹也 (きだ てつや)	熊本大学大学院 自然科学研究科 教授
大橋 理人 (おおはし まさと)	大阪府立大学 大学院理学系研究科 分子科学専攻 教授
山田 亮祐 (やまだ りょうすけ)	大阪府立大学 大学院工学研究科 物質化学系専攻 准教授

当社は、水素エネルギー社会の早期実現に貢献することを目的に、2006年3月に本基金を創設しました。本基金は、水素エネルギー供給に関する研究助成に特化した公益信託としては我が国初のものであり、水素エネルギー供給に関する「独創的かつ先導的な基礎研究」に対し、年間総額5千万円（1件あたりの上限1千万円）の研究助成金を約30年間にわたり安定的に交付することが可能な規模を有しています。

本年度は、45件の応募の中から、本基金の運営委員会による厳正な審査を経て、上記助成対象者を決定しました。また、研究助成金贈呈式は11月17日（火）にオンラインで開催いたします。

当社は、今後も本基金を通じて、水素エネルギーの活用を促進し、低炭素・循環型社会の形成に貢献してまいります。

以上

## &lt;添付資料&gt;

1. 2020年度 助成対象者および研究テーマ
2. 「公益信託ENEOS水素基金」の概要

**とどけ! 熱いエネルギー ENEOS**

2020年度 助成対象者および研究テーマ

第1分野<水素製造技術>

かげしま ようすけ  
影島 洋介 (信州大学 工学部 物質化学科 助教)

“光触媒的・光電気化学的水素生成を志向した可視～近赤外応答型銅カルコゲナイト粉末光触媒のバルク・表面での電子構造制御・表面反応場設計 “

やまかた あきら  
山方 啓 (豊田工業大学大学院 工学研究科 准教授)

“表面欠陥準位を制御した新しい光触媒の開発 “

第2分野<水素貯蔵・輸送に関する技術>

きだ てつや  
木田 哲也 (熊本大学大学院 自然科学研究科 教授)

“酸化グラフェンを用いた水素輸送デバイスの開発とその動作機構の解明 “

第3分野<CO<sub>2</sub>固定化・削減技術>

おおはし まさと  
大橋 理人 (大阪府立大学 大学院理学系研究科 分子科学専攻 教授)

“二酸化炭素から有用有機化合物への高効率直接変換を可能にする含フッ素有機分子触媒の創製 “

やまだ りょうすけ  
山田 亮祐 (大阪府立大学 大学院工学研究科 物質化学系専攻 准教授)

“緑藻-バクテリア共培養系の指向進化および希薄CO<sub>2</sub>からの有用物質生産 “

以 上

## 「公益信託 ENEOS 水素基金」の概要

信託目的	地球環境と調和したエネルギーである水素エネルギーの供給に関する基礎研究への助成を行い、もって水素社会実現に貢献することを目的とする
信託財産	15億円
年間助成金額	総額5千万円以内とする（1件あたりの上限は1千万円とする）
助成する研究	水素エネルギーの製造・輸送・貯蔵およびCO <sub>2</sub> 固定化に関連する技術分野で、独創的かつ先導的な基礎研究を対象とする
助成対象者	大学や公的研究機関等、営利を目的としない国内研究機関に所属し、「助成する研究」に合致する研究を行う者
募集・選考方法	公募とし、当公益信託の運営委員会にて審査する
委託者	ENEOS株式会社
受託者	三井住友信託銀行
主務官庁	経済産業省

### ＜公益信託について＞

公益信託とは、委託者が、財産を一定の公益目的のために信託銀行（受託者）に拠出し、設定した公益信託（公益信託契約）に従って、信託銀行がその財産を管理・運用し、公益のために役立つ制度であり、奨学金の支給、自然科学・人文科学研究への助成、自然環境保護活動への助成、国際協力・国際交流促進など、様々な金銭給付型の公益事業に活用されている。

なお、公益信託の設定にあたっては、主務官庁の許可が必要となる。

